

東久留米稲門会会員	161名
当市在住の校友数	990名
うち早大校友会入会	279名
入会率	28.18%
都内の平均入会率	24.90%
23区の平均入会率	24.96%
三多摩の平均入会率	24.73%
全国の平均入会率	24.33%

(平成12年1月末現在)

東久留米稲門会・会報 杜の西北

2000年3月
第6号

発行 東久留米稲門会

事務局 東京都東久留米市
新川町 1-7-8

電話 0424-76-5432

FAX 0424-76-5430

創立二五周年記念事業

「ワセダ生涯学習共同体」構築へ

全校友の熱い支援を!



中嶋・校友会代表幹事が呼びかけ

建学二五周年をフシ目として母校・早稲田が大きな変革を遂げようとしている。とくに全学を生涯学習機関化する意欲的なプロジェクトは注目の的だ。この実現のためにはオール校友の協力が欠かせないとあって、このたび早大校友会代表幹事、中嶋宏氏Ⅱ写真上Ⅱから東久留米の稲門会会員、市内在住のOB各位に次のような特別メッセージが寄せられた。

伝統ゾーンを残そう

「あれ見よ かしこの

常磐の森は

心のふるさと われらが母校」

一節を追い、さらに一節へ。

さまざまな思いをこめ、誇りた

かき校風に酔いしれながら、校

友は母校への郷愁に、ときに目

頭を熱くしている。

心のふるさとをう歌うとき、ひ

ときわ鮮やかに蘇るのは、大隈

講堂から大隈老侯の銅像にいた

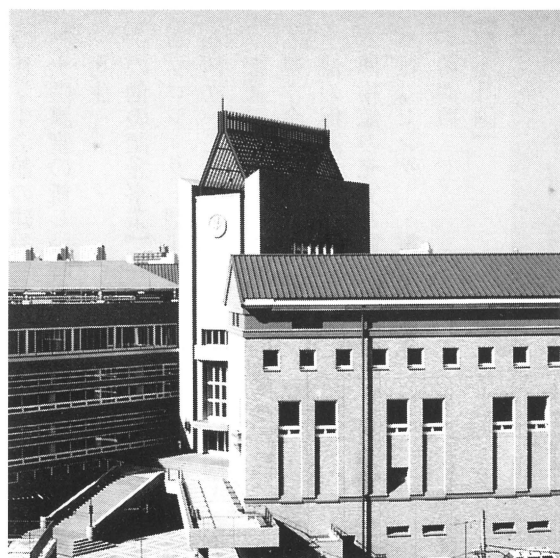
る景観だろう。いつのころから

か、人呼んで「伝統ゾーン」と

いう。

大隈講堂の竣工が昭和二年。

旧図書館は、その二年前に完成。



写真は注目の「総合学術情報センター」(上)と
リニューアルなった「演劇博物館」

由緒ある伝統ゾーンのなかで
気掛かりなことがある。その象
徴ともいわれる大隈講堂の老朽
化で、ここ数年
傷みが激しく修
復修理を繰り返
していることだ
である。

「伝統ゾーン
を残そう」、そ
の声にこえて大
学はこの一画を
保存することに
した。それは歴
史の継承と同時
に校友の熱い思
いへの心遣いでも
ある(次頁へ)

周辺、眼に映る限りの校舎は、
そのほとんどが昭和初期に近代
化を目指して建てられたもので
ある。

しかもそのいずれもが、創立
を記念する周年事業として目論
まれたものであり、総事業費の
大部分が校友の熱心な募金によ
って賄われた。

大学は、創立二十周年の明治
三十五年、初の周年事業・募
金を行った。その後ほぼ五年乃
至十年おきに周年事業を計画し、
その都度、赤誠こもる校友の支
援を得て完成してきた。「早稲田
大学と周年事業・募金」は大学
の発展史とも結びついてきたの
である。

創立一二五周年 記念事業・募金の大綱

今日、早稲田大学は二十一世紀にむかつて世界の大学を目指し、改革の大事業に取り組んでいる。第十四代奥島孝康総長は就任の翌年（一九九五年）建学の理念を原点とし、世界に通用する人間づくりをモットーに「グローバル・ユニバーシティの実現」をメインコンセプトとする遠大な構想を打ち出した。それは当時の守旧ムード濃い学内に変革の新風を巻き起こすとともに、「凋落する早稲田」と揶揄し、好餌にしてきたマスコミの筆をも鈍らせることになった。

部体制も固まり、具体化へ加速度がついてきた。年明け早々には各界を代表する方々によって募金委員会が経団連ビルにおいて盛大に挙行された。

「一二五周年」。早稲田大学にとっては歴史的な年回り、第二世紀の幕開きと位置づけるほど重要な意味をもつものである。人間は誕生すれば一二五歳まで生きられるという大隈老侯の「人生一二五歳説」に因んでいるからで、事業の重さを感じられる。その成否が明日の早稲田を左右するとさえいわれているこの計画は、是が非でも完成させなければならない。

あれから五年、輪郭が次々と明らかになってきた。そのなかから迎える二〇〇七年をターゲットにした事業を創立一二五周年の記念事業として選定した。学内外の合意のもとに全学的組織図がつくられ、募金推進本

奥島ヴィジョンと 創立一二五周年

今回記念事業として選定したものは、緊急を要し、かつ社会的意義が高いと思われる八事業で、総事業費約四八〇億円を予定している。

このうち募金対策事業を三事業とし事業費三六〇億円を考え

たが、昨今の経済環境のもとでの募金は大変に厳しく、募金額を二〇〇億円とし差額は自助努力により準備することにした。

【募金対策の三事業】

◎インテリジェント教育研究棟二棟の建設

◎新学生会館の建設
◎大隈講堂の新しい時代への再生

【その他の記念事業】

△プロジェクト型研究所設置
△創立一二五周年記念チェアの設置
△奨学金制度の充実（国際交流の促進）
△博物館の充実と電子化
△雑誌センター・電子図書館の設置

【募金計画】

計画実現に当たった課題

前回一〇〇周年募金において最も注目すべきことは、個人の募金申込み件数が予想外に不振を極め、特に校友において著しかったという事実である。

今回は個人対象募金を先行させることから大学は募金方法に特に配慮するとともに、対象の中心である校友会に対し強く協力を求めている。即ち、

一、一口当たり募金額を一万円とし、できるだけ複数口かつ継続しての応募を期待する。

これは全校友の参加を念頭においての設定である（因みに前回は一〇五万円、二〇口以上であった）。

二、大学は今回を機に「校友との強い絆を未来につなぐ強固なものにしていきたい。大学自

①募金目標額—二〇〇億円
②募金の対象—教職員、校友、在学生父母、一般篤志家、企業等法人
③募金開始時期・期間
個人対象—二〇〇〇年四月
法人対象—二〇〇〇年三月

（二〇〇〇年三月以降を予定）

④募金方法—一括方式・分割方式を選択

⑤募金の種類—一口一万円・複数口継続を

体を生涯学習の場とし、まずは『生涯学習共同体の構築』につとめ、次いで『常時募金体制の確立』に結びつくように、一人でも多くの校友の参画を求め、その結果をもつて将来の貴重な布石としていきたい」と強く希望している。

これは取りも直さず校友会組織の革新強化を求めているもので重い課題を担うことになった。そこで校友会は先頃、近未来構想と銘打ちI・T（情報技術）革命に乗った抜本的改革案をつくり、これへの対応を図った。

それは新しい価値を校友に提供するものであり、豊かな人生づくりに貢献することを意図したものである。しかし、これが具体化するま

では今暫くの時を必要とする。その間は考え得るあらゆる智慧を出し合い、従来に倍する努力をつくしていかねばならないと思っている。

・在住校友の正確な情報収集
・地域・職域稲門会における募金活動の組織化
・ゼミをはじめ各種サークルとの連携

・各学部との協力態勢の促進（学部別学年別稲門会の強化）

当面、取り組みを急がなければならぬ案件は目白押しである。直ちに取らねばならない募金活動というものは地道な努力の積み重ねが大切で、特にマン・ツー・マンの対話のなかで理解を求めていくことが肝要であり、決め手となることを忘れてはなるまい。息の長い道のりではある。

「集り散じて人は変われど：われらが母校の名をば」

たたえん」

先輩校友の温かい支援によって私どもは、「二十世紀の早稲田」という素晴らしい恩恵を受けることができた。次代を担う若人たちに「二十一世紀」という大きな夢を残すことが私どもに課せられた役割だと思う。

心のふるさととは不滅である。母校の発展のため、熱い協力を切に願うものである。

米法務長官を救った

『都の西北』

早稲田大学校歌『都の西北』は、不思議な魔力をもった歌である。早稲田の卒業生であれば、この歌を歌えば必ずや青春の思い出が鮮やかに蘇り、フツフツと熱い血が再びたぎるのを感じるだろう。卒業して何年たつていようとみなで『都の西北』を歌えば、心は懐かしい早稲田時代に戻っている。それぞれの脳裏に浮かぶ早稲田の姿は、時代によって少しずつ異なるであろうが、その思いはひとつである。早慶戦のこと、ひそかに思いを寄せていた人、結構、まじめに学んだ日々、クラブの合宿など、私の心のなかでも走馬灯のように浮かんで消えてゆく。このような名校歌はどのようにして誕生したであろうか。

『都の西北』が早稲田の校歌に制定されたのは一九〇七年（明治40年）、早稲田創立25周年のことである。この年は大隈重信が総長に就任した年でもある。かねてより大学関係者の間では早稲田独自の校歌制定の機運が高まっていて、明治39年には歌詞を学生公募したが集まった23編のなかにはふさわしいものがな

母校史散策——2題

かった。そこで審査員の坪内逍遙と島村抱月は、作詞を第2回英文科卒業生の相馬御風（そうま・ぎよふう）に依頼した。御風は明星派の歌人であり当時「早稲田文学」の編集に従事していた気鋭である。この大抜擢に対し、御風は逍遙の加筆を条件に作詞を引き受けた。苦勞の末、10日余で書き上げた歌詞を逍遙は読むなり絶賛し、最後の部分に「わせた わせた わせた」とのみ加えた。そしてこの名歌詞に曲をつけたのが当時早大講師の東儀鉄笛（とうぎ・てつてき）である。鉄笛は欧米の大学校歌を丹念に研究して曲を書き上げた。御風25歳、鉄笛28歳のことである。発表後、『都の西北』は世にひろく知られるようになり、一高寮歌、北大寮歌とならび3大校歌と呼ばれるようになった。

さて、校歌の長い歴史のなかで、感動的なエピソードがある。昭和37年米国のロバート・ケネディー法務長官の講演会が大隈講堂で行われた。日米安保問題でゆれていた当時、全学連が抗議行動をおこし、反対学生も多く講堂にはいつていた。ケネディー長官のスピーチが始まると喧々囂々、野次と罵声が飛び交

い、スピーチを阻んだ。また、それに追い打ちをかけるように一時停電となり会場は文字通り騒然となつてしまった。

このとき活躍したのが会場にいた応援部旗手、長沢慎吾である。彼は、このままではいけないと強く思い、壇上に向かっていった。彼は学生たちに向かって声の限りに叫んだ。「わせたー！だいがくー！こうかー！」と。

長沢の指揮にあわせて学生たちは『都の西北』を歌った。一部の学生たちの横暴ぶりに抗議するかのよう。1番が終わり、

居候が大好きだった

大隈 重信

早稲田建学の祖、大隈重信は食客Ⅱ居候（いそうろう）を自邸におおぜい抱えるのが大好きだった、といわれる。

明治4年東京築地にあった福岡・黒田藩の5千坪の大きな屋敷に住むようになった大隈は「明治の天下は書生の天下」などといい、常時、30人前後、多いときには50人を越える若い居候たちに自邸を開放していた。

2番が終わり、3番が終わるころには、野次も消え、校歌は高らかに大隈講堂のなかに響きわたった。校歌が終われば会場は静けさを取り戻し、ケネディー長官のスピーチも無事終わった。早稲田の窮地が救われたのである。

いよいよ来年は21世紀を迎えるが、進取の精神、久遠の理想と歌った『都の西北』はいつの時代にも新しく、かつ過去と未来を結ぶ私たち早稲田大学に学んだ者、学んでいるものの宝だと私は思っている（山岡恭子）

3歳年下の伊藤博文は大隈邸の隣に塀ひとつで接する小さな家に住んでいたが、一日なんとなく大隈の屋敷の台所からわが家同然に出入りしていた。年上の井上馨や大久保利通らもしよつちゅうやってきた。大隈邸で少壮の官僚が鳩首、廢藩置県など素案を相談し重臣たちに建



言したこともある。

一方、維新後のごたごたつきで、まだ住まいのない役人や不平士族の子弟も、藩閥を越えて集まった。別の屋敷と食客をかけもちするくわせ者、遊び人で真つ昼間から緋縮緬（ひちりめん）の長じゅばんを着て邸内をうろうろする者、他の居候の財布をちよつと失敬して遊郭で遊びほうけたのがばれ、仲間から切腹に追い込まれた者などもあった。

「一癖ある者が集まり、また豪傑連もごろごろしていて、大きな竈（かまど）で飯を焚いて食つておつた」

「月末になるといろんな所から借金取りがくる。彼らは金を遣うが、一向に払わんのである。それが皆、吾輩の背に掛かる。これには困つた」

と、のちに大隈は「早稲田清話」（大正11年刊）などで笑い飛ばしている。

当時の著名なジャーナリスト、徳富蘇峰が明治29年に「（大隈の）築地の屋敷には60何人も合宿していた」と講演している。早稲田創立後も大隈邸には居候の大部隊がいたわけで、大隈は他に例をみないほど、根っからの若者好きであつたようである。

「日本語」がむずかしくなってきた。目下流行中の「ミレニアム」は、早く「ハルマゲドン」を克服して幸福な第三の千年紀（二〇〇一年から）を先取りしたいとの願いと見て、それなら一年前でもいいかと思う。なにしろこちらはあまり先のない身なのだから。

ところが、先どころではない。いまを、現在を生きているのが、なかなか大変になっているのである。インターネットとやらを加えての情報過多に煽られるのは、時代遅れの悲しさだと往生もするが、次々に生まれ氾濫する流行語の渦の中では、息が出来ないのだ。「ロングパレオのガンダロがボディワイヤー巻いてさっそうと」。カーゴパンツもい

いのだが、これが「日本語」か、ここから何が生まれるのだろうか。と首をかしげる。いぶかる頭を、日本は「亡びるね」と言った広田先生（漱石「三四郎」）の予言がかすめる。浮薄な「近代」化への警告だったが、この予言は当たった。敗戦がそうだ。そして広田先生は、日本で自慢出来るものは富士山より外にないとも言っていた。「所が其富士山は天然自然に昔からあったもの」で「我々が拵へたものぢやない」

う。そう信じて頼みにしたい。果報は寝て待てと言う。いままらに、別して果報を望むこともないが、睡眠時間をつめて働いてきた人間にとって、寝られるのは幸せだ。他人様に迷惑をかけるわけではなし、「臥遊」を決め込むことにしようと思う。絶えて得られなかった自分の時間である。まさに悠々自適、書画の世界で人間回復の時を満喫しよう。遊びを知らない世代のせめてもの贅沢だ。幸い、老後の

ず、年寄りは年寄り同士で頑張れと言う。これではまるで働き蜂転じて厄介者である。いや、健康なら厄介者またよし、耐えることには自信がある。弱い孤独な老人はどうするのだ。みんな、いっぺん亡んだ日本をここまで建て直すに力した人たちなのだ。若者たちよ、「関係ない」と見捨てずに、ともに生きて、やる者として温かい席を譲ってやって欲しい」と哀願したくさえるのだ。これがまた嫌われる。「たればんだ」のペーソスや

これでいいのか、と御節介心を動かす。年寄りの冷や水だと言われても、では親の責任はどうなるんだと、子供たちの将来を思つて暗然ともなるのである。平和なのだからと言う。結構だ。万事このままでうまく行くのなら言うことはない。「生活都市東京の展開 改訂重点計画―新世紀へのかけ橋―」（平成10年11月）において都は、社会経済情勢の激しい変化に鑑み「成長社会」から「成熟社会」への転換を見通していたが、成熟は退廃を孕む。人々の心がどれだけ成長したのかと思うと不安は消しがたい。そこで縁なき衆生の勝手な神頼みではあるが、キリストの再臨を得て至福千年を期待するミレナリアリズムに、あらためて思いを馳せもするのである。

随想



榎本 隆司

二千年のめぐりと



お化けじゃないのかとたしかめる暇も与えず、「おバカブーム」の時代なんです、と教えられる。失業率は史上最高、生徒ならぬ教師の登校拒否続出、言葉とてない殺人事件、そしてまさに国辱的な廃棄物輸出犯罪等々、でも関係ないよ、オレ達はいまを楽しんでるんだ、と元氣な若者は相手にしてくれぬ。

ことばは文化だ。日本人が喋っているのだからそれに違いない

から仕方がないと、自律的な文化の創造を求めた。そのためには「囚はれちゃ駄目だ。」と先生は三四郎に教えたのだが、さて、囚われぬ自由を謳歌している現代の若者たちは、そこから何を創り出すのだろうか。

いずれにしても、新しい世代に期待するほかない。「ロングパレオ」がわからないからと言って目を剥くことはないのだ。やがては伝統文化を負った日本語の美しさに目を向けてもくれよ

安定を保障する福祉の恩恵、当然の権利だが、余生を夢見て感謝しはじめた。ところがである、庶民のあずかりしらぬ不景気づきで世情激変、年金が危ない、介護制度は見直しだ、だから甘い夢は捨てて自分で生きるでだてを考へろ、とのお叱りである。

そして、お為ごかしに老人パワーだとか高齢者何とやらのおだて・そそのかしが、もつともらしく強調される。元氣な若者は相手にしてくれ

むろん年輩者たちも、無為にして、また、ただ受け身ではばかりいるはずはない。キャリア十分のかたちは、来し方を自省しつつ世の行く末を案じているのだ。「デコテル」（装飾携帯電話）持って「プチ家出」してしまう（家がつまらないからちよつとしたことで外泊する）話など聞くと、よくわからないなりに、

これでもいいのか、と御節介心を動かす。年寄りの冷や水だと言われても、では親の責任はどうなるんだと、子供たちの将来を思つて暗然ともなるのである。平和なのだからと言う。結構だ。万事このままでうまく行くのなら言うことはない。「生活都市東京の展開 改訂重点計画―新世紀へのかけ橋―」（平成10年11月）において都は、社会経済情勢の激しい変化に鑑み「成長社会」から「成熟社会」への転換を見通していたが、成熟は退廃を孕む。人々の心がどれだけ成長したのかと思うと不安は消しがたい。そこで縁なき衆生の勝手な神頼みではあるが、キリストの再臨を得て至福千年を期待するミレナリアリズムに、あらためて思いを馳せもするのである。

（蛇足ながら「ロングパレオ」はからだに巻きつける腰巻き風ファッション。「ボディワイヤー」は入れ墨に似せて手首などに巻くナイロン製アクセサリー。「カーゴパンツ」は大きな蓋つきポケットのあるパンツ。「おバカブーム」はナンセンスを楽しむゲームとか、いずれも「イミダス2000」《集英社》に借りての補注だが、これら若い世代の流行風俗は、ついに風俗の問題としてだけに終わるものなのだろうか）Ⅱ名誉教授



交友を深めた口語クラス（前列右端が筆者）

語にした結果、40人強の男子学生に対して女子4人という心細い環境で、私の大学時代は始まったのでした。

し

第1も

え、スキーやテニスのサークル単位でなりたっていた。レジヤランドが普通でしたが、クラス単位で交友を深めることができたのはひとえにロシア語クラスという繋がりがあったからです。試験のことを考えれば頼りになるのは、同じ講義をとっている友人しかいないのですから。ういうわけで、われわれロシア語クラス「26R」は、授業の空き時間もともに過ごす仲間となっていたのです。もともと「頼りになる」ということの実態は、授業にでて、きちんとノートとっているのが男

私が早稲田に入学した昭和60年代は、新聞マスコミで「大学レジャー化」が指摘され、現在の「女子高校生ブーム」の前時代的な「女子大生ブーム」の最中でした。

女子大生がレイヤーカットにトレーナー、巻きスカートといった「ハマトラ」や「ニユートラ」と呼ばれるような姿・格好でファッション雑誌に登場していました。しかし、早稲田の女子はちがいました。私たちは「女子大生」とはいわず、「女子学生」と自分たちのことを呼んでいました。マスコミで騒がれている「女子大生」とは、明らかにちがうという意識がそこにはあったのです。

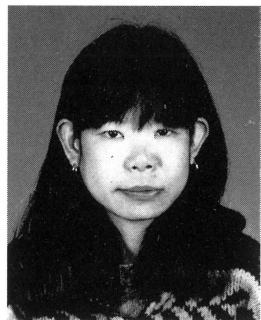
とくに法学部にいたっては、



わが早稲田時代

結束固かった 露語クラス 男女の別なく「あんた」「おまえ」

中西 裕子



現在の中西裕子さん

ることになり、かけがえのない友人を得られることになりました。大学生活での友人関係とい

子で、私たち女子4人はその講義ノートをコピーさせてもらおうが多かったのですが。

当時の早稲田は、3年になるとゼミの先輩などから就職情報を収集し、就職先をさっさと決め、4年になったら卒業旅行と称して海外旅行へ2、3ヶ月ゆくというスタイルがもつぱらでした。私のクラスもゼミが始まるころには仲のよい10人程度にメンバーが固定していきましたが、まだ就職活動も気にしなくてよかったころの夏には、クラス全員で海に1泊2日かけていったものです。もちろん男子学生も私たちも一緒です。夜の更けるのも忘れ、一人ひとりの将来の夢や希望を語り合ったものです。男女の区別なく、「あんた」や「おまえ」で呼び合い、かつそれが気にならない友人関係は早稲田ならではのものといえるでしょう。卒業後も春には大阪に集まって花見をするほか、年に何回かの飲み会をし、そのときは大学時代に戻る関係が現在も続いています。（平1法）

入会のご案内

当稲門会へのご入会は
年会費3千円。振込先は
郵便振替 00100-6=1607
東和銀行東久留米支店
(普通) 651340
口座名義はいずれも
「東久留米稲門会」。
問い合わせは
☎ 76-5432
高橋事務局長まで

近況・僅況

◆週1回西部地域センターで「太极拳」をやっています。健康ブームのせいか、昨秋のフェスティバルでは13名も新規加入があり40名を越す盛況です。入会そろそろ1年になる当会会員、白田利忠さんも目覚ましい進歩をみせています。ご希望の方はどうぞ73・3051まで—末松毅(昭28政経)◆
古代史・考古学に興味があり、昨年は旧石器発見50周年を記念する展覧会をみに群馬県岩宿資料館にいつてきました。東久留米・自由学園南、小平・鈴木、小金井・野川などが旧石器の重要な発掘地であることを知り、さらに興味を湧いてきました—佐藤雄二(昭37理工)◆
◆当会の囲碁部入会を契機に3年間勉強し、昨年初め日本棋院より3段の免状を取得しました—深沢政次(昭28政経)◆
◆朝夕、犬の散歩。お陰さまで元気になります。年のことは気にしないでいます—森本忠史(昭15専政)◆
◆2000年4月から1年間、交換研究員として上海復旦大学で過ごす予定です—杉本達夫(文学部教授)◆
◆情報の多さ、通信の速さと自由化による経済界の変動を考えると、いつときも国内外の状況から眼を離せない時代となりました。年齢相応に元気です—小野塚博(昭26商)◆
◆数年後に余裕ができて稲門会の有志の方と「古典を読む会」を開くのが夢です—新見稔(昭46文)◆
◆昨年12月16日付で健身健康法教育学院指導士の資格を認定されました。(次頁へ)

雨が降っても成功 初秋のバーベキュー大会

女性サークルが企画・主催

昨年は、恒例の夏の納涼会が開かれず、その代わりに企画されたのが初秋のバーベキュー大会。まず菱山房子姉が車を駆ってバーベキュー場探しを開始した。近隣の川原を見て回ったが、水量の問題もあり、清潔な水もないということではなかなか適地が決まらない。それではと近郊の青年の家へ。設備はいい、水もいい。すべて条件が整っていると大喜びして二度、三度下見をかさねるうち、なんとアルコールはご法度とわかり、また白紙に。こうしてやっとたどり着いたのが立川の国立昭和記念公園。ここではバーベキュー機材の借料が少々高いが、水は十分、衛生面も大丈夫。本格的な炭火バーベキューができる。

あとは食材。「雨天中止」が原則だから雨になつたらキャンセルできるスーパーを会場近くで

物色。少ない費用で肉類、魚介類、野菜、調味料、飲み物、酒類をたっぷり調達、さらに使い捨てのできる紙製の食器類などを買うため、菱山姉の車は少しでも値の安い店を求めて走り回った。

やがて大会当日。女性サークルの面々がゆでたジャガイモ、洗って刻んだ野菜、のりで巻いたおにぎりなどを用意した。一方、男性会員は肉や魚を焼いたり、焼きそばをつくったり。途中、本降りの雨になつたがテントを張って、バーベキュー大会は夕方まで続いた。屋外で楽しみなが食事をつくって食べたこの大会の成功は、参加者全員、満腹になってご満悦の表情。左掲の写真参照Ⅱがよく証明している。すべてを取り仕切つてくださった菱山姉に、みな大感謝である。

(石寺美弥子)



新・部会長に榎本さん

女性サークル

11月13日、飯能のハーブ館「生活の木」で、参加者6名により次年度の部会世話人の選出を行いました。

今年度から世話人の任期を1年の持ち回りにし、サークルの運営負担を全員で分担する方針を決め、世話人に榎本さん、サブに吉川さんを選任しました。

夢は稲門書道展

書道部会

書道部会が発足して丸2年、26名の部員がお互いの個性のある書を批評しながら、月1回の例会を楽しんでいます。ある部員は入会したのを機に各所での作品展に足を運ぶようになり、今まで素通りしていたデパートの展示会も興味をもって鑑賞するようになった、といえます。他の部員も同じ気持ちでしょう。

ひとりではなかなか続かない人でもグループのなかに入ると知らず識らずのうちに書を楽しみながら上達してゆくものです。書を学ぶとは、まず書を実似ることです。これを「臨書」といいます。書の基本です。目下、白楽天の詩人五言絶句を楷書、李白の詩七言絶句を行書、これ

当日は11月半ばというのに飯能でもまだ紅葉が始まったばかり。穏やかな小春日和に恵まれ、参加者全員、子供時代にもどつたような気分で落ち葉を拾ったり、ハーブの香りを楽しみました。

今回の部会は6月の第2土曜。1人でも多くのご参加をお待ちしています。最後になりましたが2年間世話人を1人で務められた石寺さんに「ご苦労さまでした」と労いの言葉を差し上げたいと思います。(中西裕子)



を月例課題として臨書しています。併せて季節に応じた仮名手紙を自由課題として練習に精を出しています。

部員には書を友にしようとする姿勢がみられます。書は文字を素材とした芸術、書は心の画といわれています。できれば近い将来、部員全員参加の稲門書道展を：と夢みています。書に興味のある方、部員の大部分がそうですが「六十の手習い」とおっしゃる方は中央公民館(毎月第2日曜の練習日)へお越しください。一緒に書を通じて親睦の場をもちませんか。(武藤豊)

(前頁から続く) まず自分自身が健康であつて困っている人々に健康になつていただくことに生きがいがあると思います。平岡政澄(昭36法) ◆青葉会とシルバー人材センターに入っているいろいろな運動に参加しています。西部地域センターで行われる囲碁のリーグ戦にも参加しています。が成績はあまり良くありません。三原田栄(昭30政経) ◆1月10日ウィーン経由で出発、15日はヴェネチアから電車でイタリアの西端の付け根にあるトリエステのサバという詩人の書店を訪ねました。イタリアは2000年といつてもコンピュータの問題ではなく、キリスト生誕2000年のお祭りの準備に熱中していました。館雅子(特別会員) ◆俳句部会で苦吟中です。しかし楽しくて仕方ありません。感謝! 馬場清彦(昭28法) ◆短歌集「行雲」を短歌新聞社から出版しました。栄田卓弘(名誉教授) ◆先日、株主総会で社長として老骨に鞭打つこととなり、景気低迷の折からしんどいことになりそうです。高柳康夫(昭33商) ◆昨春、東久留米市職員を定年で退き、マイカル清瀬サティの嘱託技術職として防災センターで元気に多忙な日々を過ごしています。昨秋は東久留米市自治功労者として稲葉市長から表彰をいただきました。 ◆2月中旬まで地価公示、相続税関係の鑑定評価が多忙です。土日は時間があつたら自宅から往復1時間強で清瀬駅まで散歩するのが楽しみです。藤田貞夫(昭34政経) (次頁へ)

東稲俳壇

小金井公園吟行・選句

(平成11年11月14日・日
参加11名)

やまくわの葉の黄ばみたる

瑠璃の色

(山桑の黄葉が目にしみ、るり色の天空)

静けさや「桜の園」に落葉踏む

(落葉踏み、チェーホフの小説を想う)

杉本達夫・文学部教授

公園に楽市もあり秋日和

(開催中の楽市(フリーマーケット)も)

大久保泰司・昭30法

陽に向かい冬紅葉なほ

燃えてをり

(冬紅葉は陽さすなかな彩色をたもとんと)

行儀よく松は編目に落葉して

(松落葉が行儀だしく編目に。観察よし)

小春日や公園のはと児と遊ぶ

(鳩と子供が遊ぶ。小春日和だからこそ)

馬場清彦・昭28法

冬ぬくし鼓うつ手の

かろきかな

(暖冬の日に若き手さばきは絶妙・)

落葉掃く平成の婦に是清邸

(明治建築の高橋是清邸に現代像を重ね)

枯萩の小草いただきて

広ごりぬ

(枯れみそはぎの群落のなかには緑の小草)

橘正治(雅契)・昭29文

手をつなぐ子の靴うつむ

落葉径

(落葉みちを歩む子。靴が埋まるほどに)

山桑の音なく散りし青い空

(音なく散る山桑の葉。青空に静かに)

採る人もなき残り柿郷土館

(たてもの園の郷土館。たわわに残る柿)

太田蔵之助(千雪)・昭23商

吟行や落葉踏む音それぞれに

(落葉を踏むそれぞれの音に着眼の意外性)

案内板見る人の背に小春かな

(小春日が園の案内板みる人の背中に)

どんぐりの転げる小径

走る子等

(どんぐりと子らがともに転がる錯覚)

比護喜一郎・昭37商

紅の落葉しばらく手のひらに

(紅色の落葉を見つけ、いとおしさに)

冬紅葉過去ふりかえる

ゆとり得て

(陽を得た冬紅葉に来し方と今を想う)

棚野愛子・昭34文

井筒より溢れる水に散紅葉

(高橋是清邸庭園の情景。緩急の取合わせ)

出桁に迷いとまりし枯蟬螂

(たてもの園旧家の出桁でかまきり臨終)

安宅武一・昭28商

武蔵野や枯木立また風情なる

(武蔵野樹林は枯木立の景もまた情緒格別)

高橋貞一・昭26法

【寸評・橘正治】

新年句会

俳句部会の新年句会は2月6日、大門大橋際のうなぎ釜飯「た川」で。参加12名。

兼題・冬季雑詠2句、席題

・立春の3句。高点句を紹介

します。

老婆と諸事簡略の鬼やらい

安宅武一・昭28商

豆撒きて子らの育ちし

部屋に座す

大久保泰司・昭30法



晩秋の大自然、満喫

秩父ハイク

11月21日、西武快急・三峰口に乗り込み、総員12名勢揃い。

車窓より奥武蔵の山並み、武甲山を望むなか、浦山口に到着。

点呼、ストレッチのあと武甲の水で喉を潤し、いざ出発。しばし車道を歩き久那大橋を渡る。

橋からの眺めが素晴らしい。杉林の暗い澤沿いの登りのあと、

頂上の平地に至る。約2時間を要し目的地ミューズパークに着く。

黄葉した銀杏の鮮やかな色合いが晩秋を感じさせる。丸山、

二子山の遠望がまた楽しい。昼食時少々のビール、酒、豚汁で

交歓。大いに盛り上がる。

帰路、眼下に広がる市街地を見下ろしながら秩父駅を目指す。

この時季としては暖かな良い天候に恵まれ、程よい汗をかき、

全員無事、午後4時過ぎに東久留米に帰る。

(川上昇二)

下克上の戦いも

囲碁部会

会員は現在13名。従来、月々の例会は中央公民館を使用していたが、6月から会場を成美教育文化会館に変え、きれいな和室で毎月第4日曜日に和気あいあいと楽しんでいる。

なお会員の棋力の向上を図るため昨年春から所沢在住の校友中道幸雄氏(日本棋院普及指導員)に毎回指導棋をお願いし、その成果は着々拳がっている。

また毎年1回合宿し総当たり戦を行っているが、昨年は9月末に日立市河原子海岸のホテルに一泊、熱戦を展開した。結果は、最近安定した打ち回しで評価の高かった森本氏が優勝。この部会発足時、まったく初心者だった井田氏が決定戦の末、強豪、辰巳氏を破ってみごと2位を獲得、全員の大拍手を浴びた。

会員は、つねに棋書を読んだり、碁会に通うなどして棋力向上に努めており、近い将来、新たに2、3名の入段者が見込まれ、充実した部会になりつつある。

(安藤信雄)

荒木 登氏(昭31教育)

平成11年2月10日逝去

■会員一同、謹んで

哀悼の意を表します。

車・日帰り鉾金

(株)三州自動車

〒203-0032
東久留米市前沢4-4-15
TEL 0424-73-1611小回りの利く
スピーディーな“街の印刷店”

清文堂印刷所

東久留米市滝山5-1-4
TEL 74-1787

(前頁から続く) ◆昨年日本経済新聞社より「これだけは知っておきたいM&A」を出版。戦略的M&Aについてやさしく解説した本です。岩田康成(昭41政経) ◆昨年3月31日早期退職し、雇用保険も2月までで終わりました。この間簿記2級にぎりぎり合格しました。佐々木洋一(昭46政経) ◆98年12月に「企業発展と広報戦略」を編著で日経BP出版センターから、99年3月「あなたは会社を棄てられるか」(サラリーマン再生委員会編著)を共同執筆でNHK出版から出版しました。猪狩誠也(昭32商) ◆テレビドラマ「アフリカポレポレ」を制作しました。地上波での放送は4月以降になる予定です。ちなみに「ポレポレ」とはスワヒリ語で「ゆつくりゆつくり」という意味です。富永卓二(昭34政経) 順不同

平成12年度 事業計画(案)

- 一、部会中心に活発な活動を
- ☆各部会活動の充実
- ☆より多くの会員が参加できるアウトドアの催しを企画、実行する。
- 二、組織の強化を図る
- ☆第6回通常総会を機会に新会員の増加を図る。
- ☆文化講演会を催し、市民へも参加を呼びかける。
- 三、大学との関係を一層密に
- ☆大学創立125周年記念事業募金に積極的に参加するための具体的基本方針を固め、実行に移す。

マークス寿子さんの 講演会は大盛況

平成11年度 事業報告

【行事】

- ▼1・23新年宴会。割烹浜波。参加52名
- ▼4・18第5回定時総会。大学関係者、近隣稲門会等来賓8名。会員出席者74名。講演会講師はマークス寿子秀明大学教授。多数の著作、辛口の評論家。成美教育文化会館大ホール三百人席は一般市民も加えて満席の盛況
- ▼役員会。2、4、6、8、10、12月の6回開催。

【広報】

- ▼「東稲通信」ハガキ通信。1、4、7、10月の年4回発行
- ▼会報「杜の西北」第5号3月7日発行
- ▼「会員名簿」7月5日発送。11年度会員総数161名。

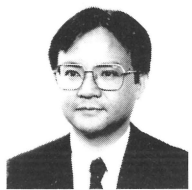
【サークル活動】

- ▼女性サークル部会(部会員18)隔月集会。10・3バーベキュー会。女子

「人間型ロボット最前線」 高西早大教授が講演

4月15日 成美会館で

喜怒哀楽の表情も出す2足歩行型のロボット「ヒューマノイド」の開発に著々成果をあげている早大理工学部の高西淳夫教授が4月15日(土)午後2時か



ちの「ゴール」と喝破する教授から、開発研究の最新情報をお聴くこと

ら東久留米市東本町の成美教育文化会館ホールで「人間型ロボット最前線」と題し講演を行います。

「行動空間だけでなく精神空間も人間と共有するロボット、つまり完全な人間の再現が私た

部企画実行。昭和記念公園、参加者29名

部会(部会員45) 4・7第9回コンペ参加20名。

西武園G.C. 9・8第10回コンペ参加21名。西武

園G.C. 園基部会(部会員14) 毎月囲碁会。9・25茨城県日立市河原子海岸ホテル静呂荘で合宿研修。参加者

9名

5・16飯能七国峠ハイキング会は雨天中止。11・21秩父丘陵ハイキング会。参加者12名。

会。26) 毎月原則第2日曜日、書道会。

【近隣稲門会との交流】

5・15保谷稲門会総会。6・6田無稲門会総会。6・19三多摩稲門連合会長会。9・22武蔵野稲門会総会。9・29三多摩稲門ゴルフ会。10・30小金井稲門会総会。10・31清瀬稲門会総会。11・7小平稲門会総会。11・20東村山稲門会総会。

【大学・校友会関係の活動】

3・12春季代議員会参加。10・7秋季代議員会参加。10・24ホームカミングデー校友大会に参加。福引券30枚販売。

支出の部		収入の部	
科 目	金 額	科 目	金 額
総 会 費	458,614	総 会 収 入	342,000
通 信 費	218,820	年 会 費	483,000
印 刷 費	68,210	(69名×5,000)	
消 耗 品 費	21,925	祝 金	30,000
会 議 費	18,000	校友会補助金	100,000
交 際 費	65,000	広 告 収 入	15,000
部会補助金	50,000	利 息	114
『杜の西北』印刷費	107,625	講演録売上金	62,600
講演録印刷費	60,900	雑 収 入	7,030
イベント補助金	24,150	前期繰越金	253,873
弔 慰 金	10,000		
雑 費	2,508		
繰 越 金	187,865		
合 計	1,293,617	合 計	1,293,617

別途積立金残高 100,045

ができます。講演会是一般市民にも開放します。どうぞご家族、友人をお誘いのうえご来場ください。講演後は当稲門会の第6回定時総会を開会します。

事務局だより

本会は、政治活動、宗教活動とはいっさい無縁であるとの基本方針を打ち出しており、その趣旨を明確にするため本会規約に次の第十三条を追加する。即

ち「本会の活動に、政治活動、宗教活動、営業活動を持ち込むではない」。同時に内規規定として「規約第二条の目的達成のため本会の活動以外に、東久留米稲門会の名称、東久留米稲門会の会旗を使用してはならない」を定める。以上の件を昨年の役員会にて決議した。なお、この規定は定時総会の承認を得て正式決定され、規約に加えられる。

ポケットパーク

▼拙歌一首「声高く肩組み歌ふ 応援歌 神宮球場に稲穂がなびく」(M・E)▼ちよつと時間ができたとき、小春日和の午後、黒目川に沿って可愛いカモを眺めながらウォーキング。日暮れて昔懐かしいビデオ、例えばアガサ・クリスティーの「オリエンタル急行殺人事件」など再度鑑賞、趣もひとしお(A・T)▼IT革命の真っ只中、このことに最もジェネレーション・ギャップを感じてしまうのは私だけだろうか(F・H)▼昨秋、33年ぶりに唐招提寺に行ってきました。以前は仏像よりも寺院建築のほうに興味がありましたが、だんだん仏像に魅かれるようになり、仏たちに会うための旅でした。金堂の盧舎那仏、千手観音、薬師如来の素晴らしい圧迫感、とくに千手観音をじっくりと脳裏に焼き付けてきました。この春から金堂の大修理が始まり、完成は9年後だそうですね(Y・K)▼2000年のカウントダウンは、銀座4丁目を迎えました。人口は25万人だったとか。2000年のその瞬間、無数の白い風船が空にふりまかれ、都会の夜が幻想的な雰囲気になりました(G・A)▼今号の記事を書くに当たり早稲田大学のホームページにアクセスしたり資料を調べたりと、少しだけ大学の歴史に触れることができました。校歌にこめられた先人の願いを絶やすことなく、さやかな早稲田魂を持ち続けたいと思います。昨今では校歌を歌えない学生もいるとか……残念です(キョん)

「杜の西北」第6号

2000年3月 発行

発行人 安宅 武一

編集人 国米家 三

編集委員 石寺美弥子

大川 洋子

棚野 愛子

山岡 恭子

山下香緒里

事務局長 高橋勲

印刷所 清文堂

栄田 征子

河村 洋子

菱山 房子

76・5432

74・1787